

別記第1号の2様式

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通信）

事業者名： 社会福祉法人マザアス

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）	
講義・演習（実習）	
1 職務の理解	6時間
(1) 多様なサービスの理解	
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間
(1) 人権と尊厳を支える介護	
(2) 自立に向けた介護	
3 介護の基本	6時間
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	
(2) 介護職の職業倫理	
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	
(4) 介護職の安全	

実施計画		
カリキュラム名・時間数		実施内容
1 職務の理解	6時間	1 職務の理解
(1) 同左	3	(1) 講義及び演習：介護保険や保険以外のサービスをテーマに、グループで話し合う。
(2) 同左	3	(2) 講義のみ
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援
(1) 同左	4.5	(1) 講義及び通信講習
(2) 同左	4.5	(2) 講義、演習及び通信講習：事例を示し、自立支援の視点から問題点と改善策をグループで討議し、代表者が発表する。
3 介護の基本	6時間	3 介護の基本
(1) 同左	1	(1) 通信講習のみ
(2) 同左	1.5	(2) 講義のみ
(3) 同左	1.5	(3) 講義及び演習：事例を示し、事故発生時の対応と再発防止策についてグループで討議し、事故報告書を作成する。
(4) 同左	2	(4) 通信講習のみ

別記第1号の2様式

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	
(1) 介護保険制度	
(2) 障害者総合支援制度及びその他制度	
(3) 医療との連携とリハビリテーション	
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	
(1) 介護におけるコミュニケーション	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	
6 老化の理解 6時間	
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	
(2) 高齢者と健康	
7 認知症の理解 6時間	
(1) 認知症を取り巻く状況	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	
(4) 家族への支援	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
(1) 同左	3	講義、演習及び通信講習:介護保険制度について (1) 各自で調べワークシートにまとめ、講師とQ&Aを行う。
(2) 同左	3	(2) 講義及び通信講習
(3) 同左	3	(3) 通信講習のみ
5 介護におけるコミュニケーション技術	6時間	5 介護におけるコミュニケーション技術
(1) 同左	3.5	講義、演習及び通信講習:利用者役と介護者役の2 (1) 人1組ロールプレイングでカウンセリングマインドを意識したコミュニケーション技術を体験する。
(2) 同左	2.5	(2) 講義、演習及び通信講習:各自で介護日報の記載の体験をする。
6 老化の理解	6時間	6 老化の理解
(1) 同左	3.5	(1) 講義、演習及び通信講習:テキストにある「老いの価値」についてグループ討議し、代表者が発表する。
(2) 同左	2.5	(2) 講義及び通信講習
7 認知症の理解	6時間	7 認知症の理解
(1) 同左	1	(1) 通信講習のみ
(2) 同左	1	(2) 講義のみ
(3) 同左	2	講義及び演習:具体的事例を示し、グループで認知 (3) 症の方々の立場を考えた上で、どういった支援をしていくべきなのか話し合う。
(4) 同左	2	(4) 通信講習のみ

別記第1号の2様式

8 障害の理解		3時間
(1) 障害の基礎的理解		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		
9 こころとからだのしくみと生活支援技術		75時間
ア 基本知識の学習		10時間
(1) 介護の基本的な考え方		
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解		
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		
イ 生活支援技術の講義・演習		53時間
(4) 生活と家事		
(5) 快適な居住環境整備と介護		
(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(9) 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		

8 障害の理解		3時間
(1) 同左	1	
(2) 同左	1.5	
(3) 同左	0.5	
9 こころとからだのしくみと生活支援技術		76時間
ア 基本知識の学習		10時間
(1) 同左	1.5	
(2) 同左	4	
(3) 同左	4.5	
イ 生活支援技術の講義・演習		54時間
(4) 同左	2.5	
(5) 同左	1.5	
(6) 同左	6	
(7) 同左	10	
(8) 同左	5	
(9) 同左	7	

8 障害の理解		
(1) 通信講習のみ		
(2) 講義及び通信講習		
(3) 講義のみ		
9 こころとからだのしくみと生活支援技術		
ア 基本知識の学習		
(1) 個人ワークでふせん記入後にグループ討議してまとめ、代表者が発表する。		
(2) 講義及び通信講習		
(3) 講義及び通信講習		
イ 生活支援技術の講義・演習		
(4) 講義、演習及び通信講習:2人1組で交代でシート交換、シートたたみを体験する。		
(5) 講義、演習:事例を示し、自立性と安全性を向上させる環境整備についてグループ討議し、代表者が発表する。		
(6) 講義、演習及び通信講習:2人1組で交代で片まひの人の着脱介助のロールプレイング実技演習を行う。		
(7) 講義及び実技演習:2人1組で交代で全介助でのベッド～車いす～トイレの移動・移乗を実技演習する。		
(8) 講義及び実技演習及び通信講習:2人1組で交代でゼリーまたはプリンのご飯介助、水分摂取介助の実技演習をする。		
(9) 講義及び実技演習:2人1組で交代で浴室での介助のロールプレイング及び車いすでの足浴の実技演習をする。		

別記第1号の2様式

(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(11) 睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	
(実習) [※] (50～55時間中12時間以内)	
介護実習	4時間
ホームヘルプサービス同行訪問	3時間
在宅サービス提供現場見学	5時間
ウ 生活支援技術演習	10～12時間
(13) 介護過程の基礎的理解	
(14) 総合生活支援技術演習	
10 振り返り	4時間
(1) 振り返り	
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	
追加カリキュラム	
計	(130時間)

(10) 同左	7
(11) 同左	1
(12) 同左	1
(実習) [※]	12時間
介護実習	4
ホームヘルプサービス同行訪問	3
在宅サービス提供現場見学	5
ウ 生活支援技術演習	12時間
(13) 同左	4
(14) 同左	8
10 振り返り	4時間
(1) 同左	3
(2) 同左	1
計	(130時間)

講義及び実技演習:2人1組で交代でトイレ介助
(10) ロールプレイング及びベッド上おむつ交換の実技演習をする。
(11) 講義及び実技演習:2人1組で交代で褥瘡予防体位変換の実技演習をする。
(12) 講義のみ
(実習) [※]
マザアス東久留米特養及びグループホームで実習を行う
訪問介護事業所の訪問介護員と共に利用者宅を訪問し実習を行う。
通所介護、その他在宅サービスで実習を行う
ウ 生活支援技術演習
(13) 講義、演習:各自で事例を基に介護過程の目的や意義を意識して個別援助計画の作成を行う。
(14) 講義及び実技演習:複数の事例に基づき介護方法を考え、一連の介護技術を行い、技術習得度の評価を受ける。
10 振り返り
(1) 講義及び演習:研修を通して学んだことを振り返ってグループで話し合う。
(2) 講義及び演習:職務理解と自己理解について提示されたテーマに沿って全体で話し合う。

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。